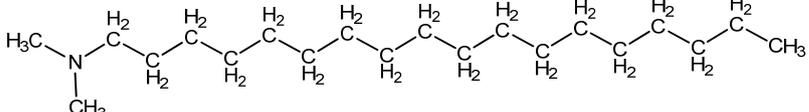


5	CAS 番号 : 124-28-7	物質名 : <i>N,N</i> -ジメチルオクタデシルアミン
化審法官報公示整理番号 : 2-176 (<i>N,N,N</i> -トリ-アルキル (又はアルケニル, アルキル又はアルケニルのうち少なくとも1個は C8~24 で他は H 又は C1~5) アミン)、2-185 (<i>N</i> -アルキル [又はアルケニル (C16~28)] - <i>N,N</i> -ジアルキル (C1~5 又は H) アミン)		
化管法政令番号 : 分子式 : C ₂₀ H ₄₃ N 分子量 : 297.56		構造式 : 

1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 7 mg/L(20°C)で、分配係数 (1-オクタール/水) (log Kow) は 8.4 (計算値)、蒸気圧は 6.7 mmHg(=8.9×10⁻⁴ Pa) (20°C)である。生物分解性 (好氣的分解) は分解性が良好と判断される物質である。

本物質の主な用途は、両性界面活性剤・アミノオキサイド・第四級アンモニウム塩・樹脂処理剤・消毒剤・カチオン染料原料、顔料フラッシング剤、医薬部外品添加剤 (薬用石けん、化粧品等) とされている。また、平成 25 年度における製造・輸入数量は、「*N,N,N*-トリ-アルキル (又はアルケニル, アルキル又はアルケニルのうち少なくとも1個は C8~24 で他は H 又は C1~5) アミン」としては 6,000 t、「*N*-アルキル [又はアルケニル (C=16~28)] -*N,N*-ジアルキル (C=1~5 又は H) アミン」としては届出事業者が 2 社以下のため、製造・輸入数量は公表されていない。

2. 曝露評価

化管法第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.015 µg/L 程度、海水域では概ね 0.0008 µg/L 未満となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 1.8 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 15.5 µg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 79.3 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.018 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 0.99 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 2.74 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.0099 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類の慢性毒性値から得られた 0.0099 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域では 1.5、海水域では 0.08 未満となるため、詳細な評価を行う候補であると考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
藻類 緑藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.0099	淡水	0.015	1.5	■	■
					海水	<0.0008			

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	詳細な評価を行う候補と考えられる。	■

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(－)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す